



杉並区内には、多くの桜の木があり、春には訪れる人々の目を楽しませてくれるが、最近その数が減ってきているという。その現状についてうかがった。

小田啓樹さん 杉並区役所みどり公園課・樹木医

プロフィール：平成18年に、第16期生の樹木医となった小田啓樹さん。杉並区役所みどり公園課に勤務し、区内の緑化整備等を担当している。

■区内の桜の木々の今

区内では、都立善福寺川緑地が桜の最大のスポットとなります。ソメイヨシノが最も多いのですが、これは昭和39年、もともとは田んぼだったところを埋め立てて公園にした時に植栽したもので、そのほとんどがおよそ樹齢30～40年ほどを経過しています。

ソメイヨシノは、エドヒガンとオオシマザクラという品種をかけ合わせてできたものです。エドヒガンは、樹齢数百年にも及ぶものがある長生きの樹なのですが、もう一方のオオシマザクラは長寿なものが少なく、ソメイヨシノは、このオオシマザクラの性質を継いで、同じく樹齢が短いのかもしません。

虫にとっておいしくない樹、例えばクスノキなどは、昔から防虫剤として使われる樟脳(ショウノウ)の成分を含むため、虫が食べないので傷みにくく樹齢も長くなります。一方ソメイヨシノのように虫が好む樹は、やはり傷みやすく、弱っていきます。

ソメイヨシノは、自分からできた種で殖(ふ)えることができないので、通常、接ぎ木をして増していけます。そのためそれぞれ同じ性質を持っており、同じ病虫害に弱いとされています。また、ソメイヨシノは、同時期に植えて育ててきたので、同じタイミングで寿命をむかえることになり、ここ数年は特に弱っている樹が増え、少しずつ減ってきているのが現状です。

■樹が都市に生きる難しさ

樹木は本来、年々大きくなるものです。山林など広大な土地では、根や枝を大きくして育ててあげられますが、都市の限られた条件の中では、どうしても大きく育ててあげることができません。

たとえば、樹が育てば枝や根が伸び、葉が茂るわけですが、都市では、交通の妨げの

原因になったり、住居空間の邪魔に感じられたりすることが起きてきます。このように人間の生活と衝突をしてしまうと、やはり剪定や枝おろしなどの処置をします。そうすると、樹が本来元気に育つバランスが崩れたり、虫食いや腐朽の原因になったりして、樹は弱っていくことになります。

公園緑地の中だけでなく、街の中の桜も同様の問題を抱えています。区内には、終戦後に町会の方々が協力合せて植えた桜が街路樹等の形で結構残っています。交通の視界の妨げなどによるなどの理由で大きくなった枝を切ったり、道路が舗装されるに伴い、根が呼吸できなくなり、こちらも徐々に弱ってきています。

住居環境の向上や景観保持を考えると、木々の樹形を保ち、根を張らせて大きくすることが必要になります。しかし狭い土地では根を張ることができず、不安定になって倒木の危険性も出てきますので、診断をして直径の3分の2が腐朽などの被害にあっている場合は、二次災害を避けるために伐採という処置をとることになります。



▲「人間の生活と自然とのバランスが重要な課題ですね」(小田さん)

樹を守るために、私たちができること

例えば、大きな公園や緑地の近くに住む方は、秋にたくさんの落ち葉をお掃除なさることもあるかと思います。そんなときは、集めた落ち葉を公園や木の根元に戻してあげてください。

落ち葉は、一見ゴミのように思われがちですが、木々にとっては立派な肥料となります。

人間の生活と樹との共生は、時に難しい場合があります。私たち行政だけの力にも限りがあります。杉並に住んでいらっしゃる区民の皆様と共に、樹木を温かく見守りながら育てていけたら、素晴らしいことでしょう。

■おすすめの桜スポット



▲井草森公園の桜(写真提供:松田輝雄さん)

杉並区には、屋敷林などの民間の樹林と公的樹林を合わせ、直径30cm以上の樹木が約33000本以上あります。樹木の種類は160種以上ありますが、その中で最も多い種類が、桜なのです。杉並区の桜の開花を大まかに言うと、シダレザクラ→ソメイヨシノやオオシマザクラ→ヤマザクラ→ヤエザクラ、といった順番に咲いていきますが、桜の中ではやはり、ソメイヨシノが一般的で人気かと思います。

善福寺川緑地など、多数の木々が一斉に咲き誇るのも美しいですが、ひっそりと花を咲かせる桜も美しいものです。例えば、西荻窪の善福寺や妙正寺公園の入り口のシダレザクラ、井草の井草森公園や、中瀬児童遊園や成田東のなりむね児童遊園に咲くソメイヨシノなども、風情があって私は気に入っています。皆さんのお住まいの近くにも、きっと美しく咲く桜が立っていることでしょうね。

(文：山崎優佳子)